

見えない、見えにくさのある乳幼児への支援は、
まなびアイサポートセンター（盲学校）にご相談ください。

なぜ、0歳からの早期支援が必要なのでしょう？

1 見えにくさから生じる困難を補うための支援を早期から行うことで、子どもが本来持っている力を十分発揮することができるようになります。

● 視覚障がい児が抱える困難さとは？

視覚からの刺激や情報が十分に得られない視覚障がい乳幼児は、外界への興味・関心を持ちにくく、そのことが、さまざまな発達の側面に影響を及ぼしがちです。また、周囲の状況の把握が困難なことにより、未知なものに対する不安感や拒否感が生まれ、行動が制限されてしまうこともあります。さらに、視覚的模倣の難しさは、姿勢や運動・動作等を身につけることを一層困難なものにするという課題があります。

2 視力は早期から正しく「見ること」で発達し、知的な理解も高まります。

● 機能弱視（屈折異常）が見つかった場合、眼鏡、コンタクトレンズを使用したり、アイパッチによる治療を行ったりして、しっかり見ること、目と手を協応させることで視力が向上します。

● 幼児期にピントの合わない網膜像を脳に送っていると脳が鮮明な形や文字を認識できず弱視になります。正しく認識する機能を訓練することが大切です。

3 家族への支援

● 初めて視覚障がい児を育てる家族は、子どもの障がいへの不安、育児の不安、将来への不安など多くの不安を抱えています。家族の気持ちにより添い、その不安を受け止め、将来への見通しをともに考えて家族を支えていくとともに、適切な家庭教育につなげていくことが大切です。また、同じ思いを抱える家族との交流の場を設けることも有効です。

まなびアイサポートセンターでは、0歳からの早期支援を行っています。
(詳細は黄色の別紙参照)

<0歳からの早期支援・保護者支援>

○遊びを通して「見る力」「触って理解する力」「環境を把握する力」などを高めます。

○「よく見て理解する力」「手で操作する力」「位置関係の理解」「効率のよい目の使い方」「弱視レンズの使い方」などを学びます。

○基本的な生活習慣、遊び、家庭での子どもとの関わり方など、子育てについて、保護者と一緒に考えます。

○保育園・幼稚園等に在籍しながら相談、支援を受けることができます。

○保護者の方が集う機会を設け、保護者同士の交流をはかります。

早期支援の実例

<ケース1・・年少から支援を受けている事例> ～保護者から～

年少の秋、病気の後遺症で視力が落ちていくと言われました。退院後、盲学校に相談に伺い、月に一度の親子のつどいに通い始めました。慣れない環境に親にべったりの子でしたが、先生方が様々な工夫で興味を引き出してくださり、いつの間にか「次の親子のつどいはいつ？」と楽しみにするようになりました。見えている間に出来ることはないかと相談した際、先生から「今はいろいろなことをたくさん経験させてあげてください。」と言っていました。何か特別なことをするわけではなく、日常生活のなかで、子どもが出来ることはできるだけまかせ、成功も失敗も様々な経験が子どものなかに積み重なり、そのひとつひとつが 貴重な財産になっているのだと思います。その後、全く目が開けられなくなった時期があり、それまでに通っていた保育園にも通えなくなりました。母子とも途方にくれましたが、ひだまり教室で受け入れていただき、子どもの力を伸ばしていただいたとともに、様々な相談にも乗っていただきました。あの頃、親子で安心して過ごせる場所があったことに、今も感謝しています。現在は再び見るできるようになり、年長の一年は地域の園と並行して、ひだまり教室に週二回通っています。様々な活動に加えて、就学に向けて視覚支援機器の使い方や読み書きの練習にも取り組んでいます。まだまだ発展途上の子ですが、ひだまり教室で多くの先生方にたくさん肯定していただいたことが、子どもの自信に繋がっています。荒波を乗り越えて、ひだまり教室でも保育園でも家でも、にこにこ笑顔で過ごせるようになったことが、何よりの宝物です。

<ケース2・・1才から継続して支援を受けている事例> ～保護者から～

盲学校には1歳からお世話になり始めました。視覚障がい児の子育てについての情報が得られず困っていましたが、盲学校では先生から具体的なアドバイスを受けることができ、親子のつどいでほかの親御さんと交流できたことで不安が軽くなりました。3歳からはひだまり教室に通い、娘は先生やお友だちと一緒に楽しみながら、様々な体験をさせていただくことで多くのことを学び、視力を補う力をつけていきました。また、娘は皆と違う自分に気づきつつありながらも、劣等感を感じたり自分を否定したりすることもなく、地域の園とともに盲学校に並行して通えたことが精神的な安定にもつながっていたのではないかと思います。入園当初は怖がり不安そうにしていた娘でしたが、今ではお友だちと積極的に関わるようになり、外を走り回り、いろいろなことに挑戦するようになるなど、この3年間で心身ともに大きく成長したことを実感しています。盲学校での早期支援を受けられたことは親子共々、貴重な財産になりました。

三重県立盲学校にご相談ください。

見えない、見えにくさのある乳幼児への支援は、早期発見及び関係機関との早期連携がとても大事です。このため、三重県立盲学校では三重県内にお住まいの「見えない・見えにくい」お子さんとそのご家族への早期支援の充実を目指しています。目に関することでご心配のある方がいらっしゃいましたら、まずは下記までお電話ください。

まなびアイサポートセンター（三重県立盲学校）

514-0819 三重県津市高茶屋4丁目39-1

電話 059-234-2188（代表） FAX 059-234-2189